

# 神経・免疫・代謝連関による NASH 病態促進機構の解明

和田 恵梨 先生

Eri Wada, PhD

名古屋大学環境医学研究所 メタボ栄養科学寄附研究部門 特任助教

Department of Molecular Medicine and Metabolism, Research Institute of Environmental  
Medicine, Nagoya University

2024 年 2 月 26 日(月) Monday, February 26<sup>th</sup>, 2024  
16:00~

場所：生体調節研究所 1 階 会議室

IMCR Gunma Univ. 1F Conference Room

従来、メタボリックシンドロームは代謝疾患と捉えられてきたが、近年、慢性炎症性疾患の一面を有することが明らかになり、過栄養により惹起される慢性炎症が内臓脂肪組織から全身臓器に波及・拡大する病態と捉えられている。非アルコール性脂肪肝炎（NASH）は、メタボリックシンドロームの肝臓における表現型と考えられ、予後良好の単純性脂肪肝と異なり、慢性進行性に肝硬変や肝がんに至ることから、その対策は喫緊の課題である。この病態機序として multiple parallel hit 仮説が提唱されており、脂肪蓄積やインスリン抵抗性などの代謝ストレスに、様々な炎症刺激が加わって発症すると想定される。このような肝臓の免疫・代謝連関が神経系によりどのように制御されるかは全く分かっていない。我々は肥満関連遺伝子としても知られる  $\beta 2$  アドレナリン受容体（Adrb2）に着目し、NASH 病態形成における神経・免疫・代謝連関の分子実態解明を目指しており、本講演で紹介する。

予約不要・直接会場にお越しください

連絡先：生体調節研究所 代謝シグナル解析分野 北村 忠弘（内線 8845）

Email : kitamura@gunma-u.ac.jp